

## 知的発達障害児の家族の力（ファミリーレジリエンス）を育むには？

知的発達障害児の成長とともに、その家族も様々な悩みを抱えて暮らしています。例えば、どのような学校に進学するのがよいのかといった悩みや、夫婦間の意見が合わないなどの悩みなどです。知的発達障害児の家族に関わる保健師には、家族の主体性を尊重し、家族が道をきりひらいていく力を形成するような支援を行うことが大切です。

本研究では、知的発達障害児の家族が、自身の力で問題を解決する力（ファミリーレジリエンス）を育むために、保健師による「家族の力を育成する支援方法」を開発し、研究者自ら、知的発達障害児の家庭へ訪問し、ご家族に支援を約 1 年間に渡り提供しました。支援を受けた 2 家族の反応をまとめました結果、以下のことが重要であるとわかりました。

- ・知的発達障害児を抱える家族の力には、家族の意思決定支援が重要な役割を果たしており、保健師による家族への選択肢の提供が、家族の意思決定を促し、家族の力への転換点となっていました。
- ・地域のサービスや支援だけでなく、同じ体験をされている家族を紹介するなどの橋渡しは、家族の対処能力の拡大につながりました。家族が体験している感情の表出は、対処行動への飛躍力として作用していました。

保健師には、知的発達障害児とその家族支援を行う役割がありますが、医療機関の紹介だけで終了する場合も多いのが現状です。学校選択などに迷っている家族に、多くの選択肢の提供を行ったり、同じ悩みを抱えている家族と悩んでいる気持ちを話せる関係づくりを支援するなど、継続した支援が大切です。

知的発達障害児を抱えるご家族の皆様は、さまざまな悩みを抱えておられると思います。悩みを共有できる仲間と専門職者を見つけることによって、家族の力を育むチャンスとなると考えます。